



# 2022年度 JFAステップアップ講習会 第2回 プラクティカルトレーニング 実施報告書

会場：広島文化学園大学 呉郷原キャンパス

日時：2022年9月17日13:00 ～ 18日13:00



## 指導者に 必要なスキル

JFAステップアップ講習会を通じ、  
指導者に求められるスキルの一つ、  
プラクティカルトレーニングの技量向上を図り、  
地域に還元すると共に、自己スキルレベルの向上を目指す。

- チューターリング
- プラクティカルトレーニング
- ITスキル
- レフェリングアナリシス

一般スキル

- フィジカルコーチ
- 審判コーチング

専門スキル

## スモール プラクティカル トレーニング

ステップアップ講習会(プラクティカルトレーニング)

Japan Football Association

2022/09/17-18

公益財団法人 日本サッカー協会

JFA



## スモール プラクティカル トレーニングの定義

従来のプラクティカルトレーニングはフィールドを広く使ったものが多く、協力者は少なくとも1チーム分程度の人数を必要とするものが主なトレーニング環境でした。

この環境を整えるのは中々難しく、せつかくレフェリー分析から引き出されたストロングポイントや課題をチュータリングやコーチングで強く認識させることが出来ても、実際に繰り返し実践して強く意識しなくてもできるレベルまでにトレーニングするためのプラクティカルトレーニングが実施されない多くの要因になっていたと思います。

そこで、少ない人数でさほど広いスペースを使わず、簡易な形で指導の目的を明確に絞り込こんで行うことを目的にしたのがスモールプラクティカルトレーニングです。

試合の振り返り直後に行うことでチュータリング等の指導を受ける前に課題改善のための気付きにつながる機会とすることも出来ると考えています。

## 研修内容

1. スモールプラクティカルトレーニングの定義
2. トレーニングプラン作成手順と作成上の留意点
3. 指導実践での留意点
4. 審判員に求めること(スモールプラクティカルトレーニング)
5. 指導者への振り返り手順

JFA

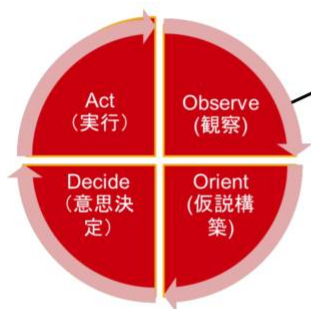
## 1. トレーニングプランの作成手順

- ① 試合分析からトレーニングの**目的**を抽出する  
・目的にそって指導の内容を出来るだけ可視化する
  - ② 審判員の知識や経験レベルを考慮する
  - ③ ウーダーループのどの過程に改善や課題があるかに気づける内容とする。
- ★課題は複合的な要因で起きていることが多いが、どのループでうまくいっていないかを審判員自身が気づける内容としたい。

JFA

JFA

外から見るとこういう風に見えるんだというフィードバック



自分を客観的に捉えることができれば  
さらに精度向上が見込める

- ・ 指導者からの観察情報
- ・ 審判員仲間からの観察情報
- ・ 自分で確認できる客観的な観察情報(映像等)

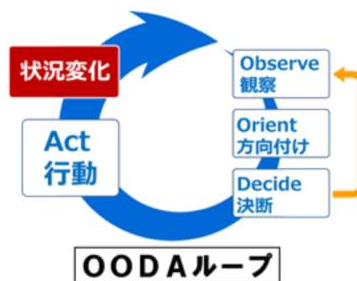
OODA(ウーダ)ループ  
(刻々と変化する状況に応じた意思決定の理論)

20世紀中頃、空中戦についての洞察を基に指揮官のあるべき意思決定プロセスを分かり易く理論化したもの。近年では、先行きが見通せない時代の変化に応じた企業の意思決定手法としても注目されている。

出典例: <https://achievement-hrs.co.jp/ritori/ooda-loop/>

4

OODA(ウーダ)ループとは



### 1. Observe(観察)

自分の身の回り、試合の外で現在起きていることを、「先入観なしに、ありのままに」受け止めます。観察が弱ければ対処を誤り、致命的な失敗の原因となります。

### 2. Orient(方向付け)

「方向付け」を「瞬時に」行います。直感の「ひらめき」を優先しますが、「ひらめき」に深さがなければ、ただの思いつきではありません。経験、教育、情報に裏付けられた現実的な解決策が「ひらめき」です。

### 3. Decide(決断)

判断のための時間が十分に確保できること、情報が十分に集まることは稀です。「方向付け」に問題がないか、実現可能性やリスクと成果のバランスといった観点から判断し、ためらわずに決断します。

### 4. Act(行動)

「決断」のプロセスで決めたことは、即行動に移します。行動が遅れば遅れるほど、「観察」のプロセスの情報が古くなり、「方向付け」の進路に誤りが生じてしまいます。「行動」によって再び「状況変化」が起こったら、「観察」に戻って一連のOODAループを回します

JFA

## 1. トレーニングプランの作成手順

① スモールプラクティカルは審判員の抱える課題の複合的要因の中から、その一部の要因を抽出したトレーニングであることを理解したプランニングを考える

② 目的に沿って、状況の設定も含めトレーニングをデザインする。

- A 協力者の配置
- B 協力者の行うこと、注意事項
- C 審判員の配置
- D 審判員の監視すべきこと
- E 審判員の行うべきこと
- F 指導者の位置

\* トレーニング内容は最大4名から5名の人数で実施可能なことに考慮する。

JFA

## 3. 審判員に求めること(通常のプラクティカルトレーニング)

- ・ 自分の特性・課題を把握しよう
- ・ トレーニングの目的を理解しよう
- ・ 実際の試合をイメージし実践的に取り組もう
- ・ 自己分析が出来るようになろう(課題が生じるプロセスを分析できる)
  - 何故うまく出来たか、どうしたらうまく出来るか
- ・ 審判指導者、他の審判員を観察、意見交換しよう
- ・ 選手が考えること、行いそうなことを実際にやってみよう
- ・ チャレンジや失敗から学ぶ姿勢をもとう
- ・ ポジティブに、シンプルに！

JFA



# スモールプラクティカルトレーニング

## 4. 審判員に求めること(スモールプラクティカルトレーニング)

- ・ スモールプラクティカルは審判員の抱える課題の複合的要因の中から一部の要因を抽出したトレーニングであることを理解しよう。
- ・ 実際の試合をイメージして、指導者が設定した状況をよく理解しよう。
- ・ スモールプラクティカルトレーニングから得たことを意思決定プロセスに反映できるようにしよう。

## 5. 指導者への振り返り手順

- A) TRプランの振り返り (methodology = 方法論)
  - ア) うまく出来た点
  - イ) うまく出来なかった点
  - ウ) 誰でも理解できるように整理された方法にするには
- B) 審判員への指導実践の振り返り
  - ア) 有益な質問の仕方が出来たか
  - イ) 積極的な傾聴ができたか
  - ウ) 審判員の同意や信頼が得られたか
  - エ) 審判員の気づきを創出できたか
  - オ) アドバイスの内容とタイミングは適切か
  - カ) 審判員をカブけることができたか
- C) 疑問点の解決
- D) Recap 理解度を確認したうえで、修正を加え重要項目(キーポイント)の整理・統合 (再確認)を行う

JFA

## 質問技術 (Q&Aの活用)

### 質問の種類

- “Open”(自由な答え) → この原因となるのは?
- “Close”(限られた答え) → あなたの年齢は?
- “Choice”(選択肢) → どちらが好き?
- “Survey”(調査・概観) → 何に基づいてこうなる?
- “Facts”(事実の確認) → 5W1H
- “Leading Q”(導き) → こうなった理由は?
- “Recapping”(まとめ) → 我々が合意したことは?

JFA

JFA

## 答えやすい明確な質問をする基本スタイル

### 「5W1Hの法則」

- ✓ いつ (When)
- ✓ どこで (Where)
- ✓ 誰が (Who)
- ✓ 何を (What)
- ✓ なぜ (Why)
- ✓ どのように (How)



- ・ 質問にあいまいさがない
- ・ 答える際の焦点が明確

参加者が答えやすい

JFA

# プラクティカルトレーニング指導者評価(例)

## プラクティカルトレーニングにおける指導者の評価(例)

※本資料は、ステップアップ講習会で使用するための資料であり、そのほかの第三者への提供や複製等は厳禁されています。

トピックス(課題) \_\_\_\_\_ 日付 \_\_\_\_\_

インストラクター氏名 \_\_\_\_\_ 場所/フィールド \_\_\_\_\_ 評価者 \_\_\_\_\_

設定時間 \_\_\_\_\_ 実際の時間 \_\_\_\_\_

スコア \_\_\_\_\_ 期待以上 81-100 期待通り 61-80 要改善 0-60

(注) 該当しない項目がある場合は「期待通り」の1/2を記入してください。

### 場の設定と準備

	期待以上	期待通り	要改善
1. 場所 - トピックスに応じた適切なフィールドの幅等/広さを確保している	3	2	1
2. 審判員の数 - 制約がある場合を除き、セッションをうまく回すために適切な人数である	3	2	1
3. 選手役の数 - 制約がある場合を除き、セッションをうまく回すために適切な人数である	3	2	1
4. 用具 - ボール、マーカーコーン、ピンス、AR フラッグなどの準備は適切である	3	2	1
5. 配置場所 - ボール、審判員、選手役等の場所がマーカーコーンで示されている	3	2	1
6. 天候等への配慮 - 雨天などによるフィールド状態、日差しによるプレーの方向など	3	2	1
<b>小計</b>			

### 計画

	期待以上	期待通り	要改善
7. 構成 - 導入、展開、まとめ等プランニングシートで明記されている構成が適切である	3	2	1
8. トピックスの盛り込み - 審判員の課題に成したポイントや十分取り込んで計画している	3	2	1
9. 理解力 - トピックスに対する十分な知識があり、重要なポイントが計画に示されている	3	2	1
10. 論理性 - どこに何を盛り込み、どのように変わるべきか気づかせるロジックが明確である	3	2	1
11. 時間配分(計画) - 運動要素を含めて、構成に応じた適切な時間配分がされている	3	2	1
<b>小計</b>			

### 仕込み

	期待以上	期待通り	要改善
12. 審判員への説明・指図 - トレーニングの狙い、注意事項など適切に伝えている	3	2	1
13. 選手役への仕込み - トレーニングのポイント、季節について共有し準備できている	3	2	1
14. 合図・指図 - 開始・終了等の合図や指示の仕方が明確な方法になっている	3	2	1
<b>小計</b>			

2022年度ステップアップ講習会 プラクティカルトレーニング 2022.9.18

## プラクティカルトレーニングにおける指導者の評価(例)

※本資料は、ステップアップ講習会で使用するための資料であり、そのほかの第三者への提供や複製等は厳禁されています。

### トレーニング実践

	期待以上	期待通り	要改善
15. 状況の実現性 - できるだけ試合と同じ(自然な)状況を作り出している	3	2	1
16. 指導者の位置 - 何を観察すべきか応じた適切なポジションが指れている	3	2	1
17. 指導ポイント - トレーニングの狙いに基づいた重要なポイントに的を絞れている	3	2	1
18. 段階を造った説明 - “簡単なこと”から“難しいこと”へ段階を造って進めている	3	2	1
19. 声掛け - 選手役への指示や励まし、審判員への声掛けの内容は適切である	3	2	1
20. 声の大きさ・トーン・スピード - 審判員、選手役等に対する声は適切である	3	2	1
21. フィールドバックのタイミング - 必要なフィールドバックのタイミングの見極めができています	3	2	1
22. フィールドバックの時間 - フィールドバック時間をかけすぎず、短い時間で気づかせている	3	2	1
23. フィールドバックの内容 - 次のように変えてみよと促すかの問いかけができています	3	2	1
24. 気づきの引き出し - 審判員の気づきを引出すことができています	3	2	1
25. 繰り返し回数 - 適切な回数トライアルができています	3	2	1
26. 話すときの位置関係 - 個人、グループへ話すときの位置関係(配置)を配慮できた	3	2	1
27. 数値で確認 - できるだけ数値で事実を確認できるようにしている	3	2	1
28. まとめ方 - 審判員から学べたポイントを聞き出し、次回に向けた気づきができています	3	2	1
29. トレーニングのレベル - 審判員に合わせたレベルのトレーニングができた	3	2	1
30. 時間配分(結果) - 効果的なトレーニングにするために適切な時間配分ができた	3	2	1
31. 視覚情報の活用 - タブレット等の視覚情報をつよく活用できている	3	2	1
<b>小計</b>			

### パーソナリティ

	期待以上	期待通り	要改善
32. 共感 - 審判員の気持ちに寄り添えている(特に、上手いときの喜び)	3	2	1
33. 受け入れられた - 指導者としてのパーソナリティ(個性、自信、情緒、信頼など)	3	2	1
<b>小計</b>			

### 満足度

	期待以上	期待通り	要改善
34. 指導者の満足度 - トレーニングの出来に指導者自身が満足している	1	1	1
<b>小計</b>			

### コメントやアドバイス

2022年度ステップアップ講習会 プラクティカルトレーニング 2022.9.18







# デモンストレーター選手役 協力大学 広島国際大学





## 参加審判員 (2022年9月17日~18日)

### 【広島県】

- ・久保 裕貴 ・加藤 元紫 ・上森 雄弥 ・松本 晃 ・藤内 一寿 ・蔵本 信也 ・林 誠二
- ・宮地 克典

### 【岡山県】

- ・阿蘇 博 ・阿部 功 ・宇高 正樹 ・沖 俊典 ・庵床 祥司 ・篠原 隆二 ・豊嶋 寛人

### 【鳥取県】

- ・佐々木 翔平 (台風の影響を考慮し参加予定をキャンセル指示)



# 講義風景



# トレーニング風景





## 今後の予定

引き続き皆様のご協力をお願いします

### ・プラクティカルトレーニング認定審査

2022年10月8日（土）～ 9日（日）

会 場：福山平成大学





## 第2回の概要紹介

JFAステップアップ講習会 プラクティカルトレーニング コンタクトパーソン  
CGFA審判委員会指導者部会 小林 久之

2022年9月17日(土)、18日(日)の2日間、広島文化学園大学呉郷原キャンパスに於いて、第2回目のJFAステップアップ講習会プラクティカルトレーニングを開催しました。台風14号の影響が心配される中、1日目はスモールプラクティカルトレーニングを中心に予定通り実施し、2日目は、参加者の帰路の安全を考え、開始時間を30分早めると共に、実践トレーニング間のインターバル時間を短縮し、受講者INS10名全員のカリキュラムを午前中で終了できるようにタイムマネジメントを行い実施しました。18日は大学リーグが台風の影響で全て中止になったことで、当初予定していた大学のデモンストレーターが参加できなくなりましたが、広島国際大学の菅さんのご配慮があり、22名のデモンストレーターを急遽派遣して頂いたおかげで、計画通りに事業を行うことができました。感謝申し上げます。

今回参加した審判員からは、今後の審判活動に活かすことができるトレーニングが出来たこと。また、新しい気付きを得ることができた講習会であったとの声も頂きました。最後に、参加した受講者並びにJFA指導者の皆様からは、多くの感謝の言葉を頂いたことをお伝えいたします。

残すは、10月8日(土)、9日(日)のスキル認定事業のみになりました。いましばらく皆様にはご無理を申し上げ、ご迷惑をおかけしますが、事業完遂に向け引き続きご理解とご協力をお願いします。

*Thank You*